

義務教育学校における特設教科「北方科」のカリキュラム開発

Curriculum Development for Special Subject “Kitagata Studies”
in Compulsory Education School大羽幸恵¹, 長倉 守²Oba Sachie¹, NAGAKURA Mamoru²

[キーワード Keyword]	義務教育学校, 「北方科」, カリキュラム開発
[所属 Institution]	¹ 北方町教育委員会事務局 (Kitagata Town Board of Education), ² 岐阜大学大学院教育学研究科 (Graduate School of Education, Gifu University)

[要 旨 Abstract] 岐阜県本巣郡北方町では、義務教育学校開校に向けた準備を進める中で、とりわけ、教科と特設教科「北方科」における小中一貫カリキュラムの開発が課題になっていた。開発の枠組みとしては、段差と接続を活かした段差の精査・焦点化による総量調整を位置付けた。本稿では、北方科のカリキュラム開発に着目し、北方科の概要について提示するとともに、段差と接続の視点によるカリキュラムの調整を視点として北方科におけるカリキュラム開発事例について考察した。本稿の整理や知見を学園推進機構に位置付けて継続的に更新を図っていく。

1. はじめに

北方町では、将来を担う児童生徒の適切な教育環境を整えるため、学園構想の施策決定に基づいて、2023年4月に北方町立北学園と北方町立南学園の2校の義務教育学校が開校した。義務教育学校については、2015年の学校教育法改正により9年間の義務教育を一貫して行う学校の設置が法制化され、全国的にも義務教育学校の設立が進んでいる。岐阜県内においては、白川郷学園の開校をはじめ、桑原学園、岐阜大学附属小中学校、根尾学園が設立されている。義務教育学校は、一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校である。学校の目的としては、心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことである。修業年限は9年で、基本的にはそれぞれの小学校及び中学校の学習指導要領が準用されるが、一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学年段階間・学校段階間での指導内容の入れ替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で行うことが認められている。

本町では、開校に至るまでに学校・地域・行政による開校準備委員会や各種専門部会などを通して、地域とともにある学校を目指して学園構想に関する議論を行ってきた。第一筆者は、教員代表として各種委員会に参加し、学園構想について検討を重ねた。このような議論の場では推進上さまざまな課題が検討されたが、とりわけ中核的課題として取り上げられた事項は、小中一貫のカリキュラムに関する事項である。本町では開校にあたり、教科のカリキュラムと特設教科「北方科」のカリキュラムについて、段差と接続に留意したカリキュラム開発を行うこととした。大羽ら(2023)では、教科のカリキュラム開発の原理や特性について検討するとともに、議論の経過、成果と課題について考察した。本稿では、特設教科「北方科」のカリキュラム開発に着目する。北方科は、地域の方や仲間と共に、より深く町の現状や歴史について学び、町のよきや課題、解決策などを探る特設教科として構想された。

そこで本稿の目的として、段差と接続の視点に基づく開発の枠組みと北方科の概要について提示するとともに、段差と接続の視点によるカリキュラムの調整に着目し、北方科におけるカリキュラム開発の事例について考察する。なお、第一筆者は義務教育学校開校に係る統合加配として開校準備委員会におけるカリキュラム開発の任務を拝命しており、こうした立場を踏まえて検討を行う。開発のプロセスや意図にも触れ、北方科のカリキュラムの特質を提示していくこととする。

2. カリキュラム開発の枠組み

北方科の設置にあたり、本町では次の4つの視点を設定していた。それは、①身近な地域をテーマとした系統的な学習、②他教科の学びと地域教材の関連・往還、③異学年交流・学園間交流を通じた相手意識をもった学習、④地域人材の活用である。これに加えて、教科のカリキュラムとの共通の視点として、段差と接続の概念の実装を設定した。図1は、大羽ら(2023)において検討した、段差と接続を活かしたカリキュラム開発の概念図である。北方科の開発においてもこの図を開発枠組みとして援用し検討を行う。

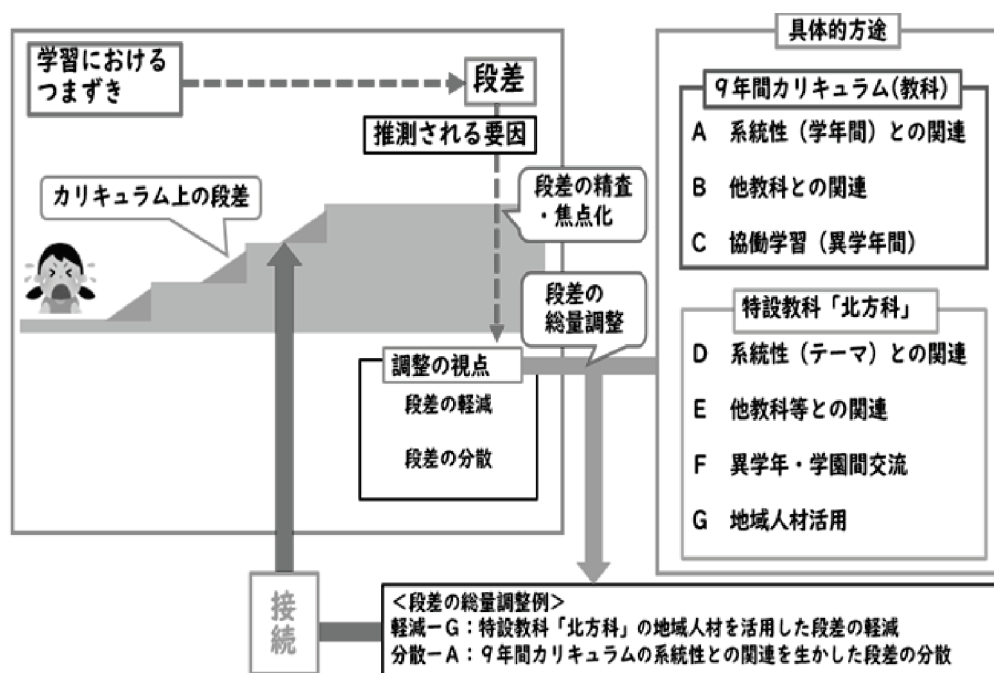


図1 段差と接続に関する概念図

3. 北方科の検討

3.1 北方科の概要

北方科は、新たな北方学園の開校に合わせ、北方町で学ぶ児童生徒が、地域の方や仲間と共に、より深く町の現状や歴史について学び、その中から町のよさや課題、解決策などを探る特設教科である。北方科のねらいについては、「9年間を通して北方町の自然、文化、歴史などを学ぶことを通し、ふるさと北方への誇りと愛着をもち、未来を切り拓く力を育む」としている。

北方科では、I部の1年生から4年生では、町探検を通して自然や町の人と触れたり、町の調査を通したりすることを通して、北方町のよさを知る。その土台を生かし、II部の5年生から7年生では、さらに町の現状や歴史を理解する。III部の8年生、9年生では、新たに町の産業や平和、政治について学びながら、よりよい北方町についてどうするとよいのか、魅力を発信したり、課題点を仲間と共に解決したりしていきけるよう、段階を踏んで考え提案することを内容に取り入れた。そのため、6年生からは学習の最後の単元に発信する場を位置付けた。また、見学に行き、実際に体験したり、地域の方から話を聞いたりすることで実感を伴った学びになるように、ゲストティーチャーから学ぶ場を位置付けた。

カリキュラム全体を通して学習の効果を高めるため、教科の学びをさらに深めることができるよう、教科と北方町の内容が繋がる箇所をカリキュラムに位置付けている。その際、図2に示すように、環境や安全、歴史といった本町に関わるテーマ性をもたせた。また、図3のように、9年間を通して教科を横断しながら繰り返し学習することができるように学習内容を配列した。

なお、カリキュラム開発にあたっては、北方科作業部会を設置し、統括担当である第一筆者を含めた北方科作業部会が中心となり、北方科審議会での意見を取り入れながらカリキュラムを開発した。北方科作業部会員は町内の小学校、中学校教職員の代表によって構成されている。北方科審議会は本町の有識者や町の専門委員長を務める方々で構成されている。北方科審議会員の専門的な立場による正確な情報や、新たに追加

するとよい視点などを意見としていただくことにより、内容の正確さや精度を高めた北方科のカリキュラムを開発した。

「北方科」の指導内容							
学年	項目	テーマ	指導内容	関連性	SDGs関連	総合等	地域の方から学ぶ
1年	町の自然や人と触れる	町探検	1 町の歌「北方のかほり」				
			2 北方町のおいしい給食	安全			
			3 北方町の子ども110番の家				
			4 北方町の昆虫名人		歴史		
			5 昔の遊び名人				
			6 お世話になった方への感謝の会				
2年			1 北方町の標識や看板				
			2 写真で町紹介	環境			
			3 ホタルが飛び交う北方町			⑥	
			4 北方町を言葉で道案内				
			5 まちの人への発表会				
			6 詩で表す北方町				
3年	町のよさを学ぶ	町のよさ	1 町のお店屋さんの仕事を学ぶ				
			2 北方町のユニバーサルデザイン			③	
			3 太陽の光を調べよう			⑦	
			4 町の豆腐屋さんに教えてもらう豆腐づくり			⑥	
			5 北方町の昔話			⑥	
4年			1 北方町の水のゆくえ			⑥	
			2 系貫川の水生生物			⑥ ⑭	
			3 北方の民謡				
			4 北方町の祭り				
			5 北方町の偉人(柳橋源太郎)				
5年	町の現状や歴史を理解する	町の現状	1 北方町の新聞記事				
			2 北方町の人口密度				
			3 流れる水の働き		英語		⑥
			4 英語で北方町を道案内				
			5 北方町のデータをグラフ化				
			6 北方町の少子高齢化				③
6年		歴史	1 北方町の史跡				
			2 北方合戦と安藤守就				
			3 北方町の歴史を英語で紹介		平和		⑯
			4 北方町の発展と公共交通機関				
			5 戦時中の北方の人々				⑯
			6 北方町の歴史を発信				⑯
7年		環境安全	1 北方町を流れる系貫川の水質調査				⑥
			2 交通事故の現状と通学路				
			3 過去の災害と防災倉庫				
			4 北方町の防災・減災とハザードマップ				
			5 町の安全を守る提案				⑪
8年	町の将来を考える	産業	1 他地域の産業活性化例から学ぶ				
			2 北方町の商業				⑪
			3 北方町の農業				②
			4 北方町の工業(南東部開発)				⑨
			5 「患者目線で寄り添う」吉村紳一先生				⑧
			6 町内での職場体験				⑧
			7 町の産業活性化のための提案				
9年		政治	1 非核平和都市宣言の町				⑯
			2 平和について英語で発信しよう				⑯
			3 北方町の財政を探る				③
			4 北方町の行政を探る				
			5 選挙の課題と模擬投票				⑪
			6 これからの北方町をプレゼンテーションしよう				⑪

SDGsとの関連

①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう ⑥安全な水とトイレを世界中に
 ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩人や国の不平等をなくそう ⑪住み続けられる町づくりを
 ⑫つくる責任 つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう ⑮陸の豊かさを守ろう ⑯平和と公平をすべての人に ⑰パートナーシップで目標を達成させよう

図2 北方科における系統表(テーマ別)一覧

「北方科」の指導内容									
部	学年	項目	テーマ	指導内容	関連教科	実施月	総合テーマ	地域の方から学ぶ	
I部	1年	町の自然や人と触れる	町探検	1 町の歌「北方のかほり」	音楽	4月	総合	・大平好秀先生	
				2 北方町のおいしい給食	生活科	5月		・給食調理場	
				3 北方町の子ども110番の家	生活科	4・5月		・学校支援ボランティア	
				4 北方町の昆虫名人	生活科	8・9月		・ゆうすい会	
				5 昔の遊び名人	生活科	12・1月		・(長生会)	
				6 お世話になった方への感謝の会	生活科	2・3月		・学校支援ボランティア	
	2年		町探検	1 北方町の標識や看板	生活科	4月		・(交通安全協会)	
				2 写真で町紹介	生活科	5・6月		・(学校支援ボランティア)	
				3 ホタルが飛び交う北方町	道徳・生活科	6・7月		・ゆうすい会	
				4 北方町を言葉で道案内	国語・生活科	9月		・(見守りボランティア)	
				5 まちの人への発表会	生活科	11月・12月		・学校支援ボランティア	
				6 詩で表す北方町	国語	1月			
	3年	町のよさを学ぶ	町のよさ	1 町のお店の仕事を学ぶ	総合	通年(11月)	働く人	・菓子製造者 ・政策財政課	
				2 北方町のユニバーサルデザイン	道徳・総合	10月		・教育委員会	
				3 太陽の光を調べよう	理科	10・11月			
				4 町の豆腐屋さんに教えてもらう豆腐づくり	国語	10・11月		・豆腐製造業者(福田さん)	
				5 北方町の昔話	社会科	2・3月		・昔の話の語り部(かよこさん)	
		4年		町のよさを学ぶ	1 北方町の水のゆくえ	社会科	5・6月	環境	・上下水道課
2 糸貫川の水生生物					総合	5・6月	・岐阜農林高校		
3 北方の民謡					音楽	7月	・北方民謡保存会		
4 北方町の祭り					社会科	11・12月	・文化財保護協会		
5 北方町の偉人(棚橋源太郎)					社会科	11・12月	・文化財保護協会		
II部	5年	町の現状や歴史を理解する	町の現状	1 北方町の新聞記事	国語	9月	福祉		
				2 北方町の人口密度	算数	10月			
				3 流れる水の働き	理科	10・11月		・(都市環境課)	
				4 英語で北方町を道案内	外国語	10・11月		・ALT	
				5 北方町のデータをグラフ化	算数	11月		・(教育委員会)	
				6 北方町の少子高齢化	算数・総合	12月		・(総務危機管理課)	
	6年	町の現状や歴史を理解する	歴史	1 北方町の史跡	社会科	4月	歴史	・文化財保護協会	
				2 北方合戦と安藤守就	社会科	9・10月		・文化財保護協会	
				3 北方町の歴史を英語で紹介	外国語	5月		・(教育委員会)	
				4 北方町の発展と公共交通機関	社会科	12・1月		・(岐阜バス)(文化財保護協会)	
				5 戦時中の北方の人々	社会科	1月		・(歴史の語り部)(文化財保護協会)	
				6 北方町の歴史を発信	社会科	1月			
	7年	町の現状や歴史を理解する	環境・安全	1 北方町を流れる糸貫川の水質調査	理科	4月	魅力ある町	・岐阜農林高校	
				2 交通事故の現状と通学路	保健体育	6・7月		・(北方警察署)	
				3 過去の災害と防災倉庫	理科・社会科・保健体育	通年(11月)		・総務危機管理課	
4 北方町の防災・減災とハザードマップ				理科・社会科・保健体育	通年(11月)	・総務危機管理課			
5 町の安全を守る提案				保健体育	通年(11月)	・北方町役場 ・2年生			
III部	8年	町の将来を考える	産業	1 他地域の産業活性化例から学ぶ	社会科	4・5月	キャリア教育		
				2 北方町の商業	社会科	通年		・(政策財政課)(商工会)	
				3 北方町の農業	社会科	通年		・(JA)(岐阜農林高校)	
				4 北方町の工業(南東部開発)	社会科	通年		・都市環境課	
				5 「患者目線で寄り添う」吉村紳一先生	総合	10月		・吉村紳一	
				6 町内での職場体験	総合	11月		・北方町商工会等	
				7 町の産業活性化のための提案	総合	通年		・北方町役場	
	9年		町の将来を考える	政治	1 非核平和都市宣言の町	社会科・総合	4月	平和学習	
					2 平和について英語で発信しよう	英語	11月		・(教育委員会)
					3 北方町の財政を探る	社会科	9月		・(政策財政課)
					4 北方町の行政を探る	社会科	9月		
					5 選挙の課題と模擬投票	社会科	11・12月		・総務危機管理課(選挙管理委員会)
6 これからの北方町をプレゼンテーションしよう	総合	11・12月	・北方町長・各課課長						

図3 「北方科」の指導内容と教科との関連

3.2 教科書と指導案の開発

北方科について各校の教育課程や授業への実装にあたり、教科書と指導案を開発した。教科書は上巻（Ⅰ部：1年生から4年生）、下巻（Ⅱ部とⅢ部：5年生から9年生）の2冊から構成され、上下巻とも2部構成となっている。前半は各学年の学習内容に関わる教科書の内容を、後半は北方科を学習する上で必要な資料を資料編として編集した。上巻の資料編は、3・4年生が中心となって使用する社会科の副読本も兼ねている。筆者は北方科作業部会の統括の立場として、上下巻すべての資料編の作成に携わった。

北方科は各学年の授業時数において年間15時間という限られた学習である。新たな特設教科を開発・実践することは、日々の業務に追われている教職員にとって、新たな負担を感じる段差となる可能性が高い。その上、本町は他市町から異動で勤務する教職員が多く、3年から5年程度で教職員が入替わる。そのため、新しく北方町へ異動した教職員も北方科の趣旨を理解し、教科との関連を意識した学習を進めることができるよう、教科書や指導案に工夫を施した。


まず、教師用の指導案には、教科との関連を位置付け、教科の授業を北方科とつなぐ視点をもって教材研究できるようにした。また、教科書には、見学をしたり、体験したりする学習以外にも、実感を伴った学びとなるよう、教科書の中にQRコードやリンク先を記載した。QRコードや関連するリンクを読み取ることで、動画や関係資料のページに移動する。これにより、さらに探究して学習できる仕組みとなっている。これは、教職員だけでなく子どもも動画や関係資料をQRコードから確認することができる。学習の深まりや広がりにつながり、発展した学びとなることを意図して作成した。

9年生 北方町の行政を探る
教科との関連
社会科

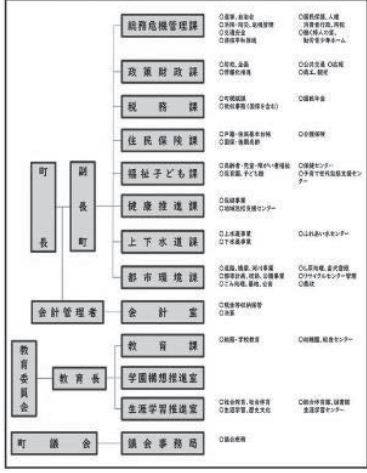
北方町の行政の仕組みと私たちの暮らしには、どのような関わりがあるのだろう。

★北方町の役場の組織がどのようになっているのか調べよう。

北方町の行政を担い様々な仕事を行っているところが北方町役場です。そこでは、様々な行政サービスを提供するために、いくつかの課に分かれて仕事をしています。それぞれの課では、どのような仕事を行っているのでしょうか。



北方町行政組織構成図 2021年現在



★QRコードからそれぞれの課の人たちの思いを聞こう。











 総務危機管理課	 政策財政課	 税務課	 住民保険課	 福祉子ども課	 健康推進課
 上下水道課	 都市環境課	 会計室	 教育委員会	 議会事務局	

図4 北方科教科書QRコード活用例

このように作成した教科書と指導案は北方科作業部会の中だけで検討をするのではなく、各校の教科部会や学年会を通して検討した。これは、実際に授業を実施する上で、教科との関連や運用面で子どもの学びに無理が生じていないかといった点を確認するためである。検討は教科書と指導案だけでなく、授業で活用する諸資料についても行った。小中合同の教科部や学年部会で検討を行うことで、より多くの教職員の目で検討ができるように配慮した。それは、内容の検討だけに留まらず、本町で勤める教職員が義務教育学校開校に向け、北方科を一緒になって作成しているという当事者意識を促すことも意図した。

また、9年間にわたる膨大な教科書の内容や指導案を検討していくため、各校の管理職にも助言をいただけるよう、筆者が校長会に参加し、教科書や指導案の作成状況を説明、教科部会や学年部会で検討した教科書や指導案について助言とともに最終確認を依頼した。その結果、各校の校長や教頭からも9年間分の教科



図5 北方科教科書

図6 北方科指導案集

書と資料編、そして指導案について助言を受けることができた。この結果、本町すべての教職員が関わる形で教科書や指導案、諸資料の検討を行い、完成にたどり着くことができた。

この北方科の教科書や資料編には、本町に関わる多くの情報を記載した。教科書としての機能を持たせるためには正確さが求められるため、北方町役場のすべての課にも内容の確認を依頼した。この北方科の授業は地域人材活用により、地域学習をさらに深めることが位置付いている。北方町役場各課への内容確認の依頼は、義務教育学校開校に向け、北方町役場の職員にも北方科への参画意識を促し、学校に対する理解と協力に関する基盤となった。



図7 役場の各課による教科書の校正

4. 北方科における段差の総量調整

北方科は教科横断的な視点で教科の学習とのつながりを明記した。また、地域資源や地域人材を活用することにより、教科の学習に苦手意識をもつ子どもにとっても、学習への段差をゆるやかにする側面も持っている。自分の住む本町のことを多面的多角的に系統立てて学ぶことは、郷土への関心や誇りと愛着をもつことにもつながる。9年間の出口として、主体的に考え、提案する力を育てることを目標としていることから、教科の設定そのものが主体的な学びへつながっており、学習に対する段差をゆるやかに接続する教科だといえよう。

それに加え、義務教育学校ならではの利点を生かし、異学年交流や学園間交流を通して考えの再構築を図ることや、北方科に位置付けた他教科や前単元との系統性との関連を生かすことで、さらなる段差の総量調整につなげることにした。

4.1 段差調整の視点「段差の軽減」+他教科等との関連の事例

教科の系統による段差を軽減し、北方科と教科の学習との往還により、なめらかに接続する事例として

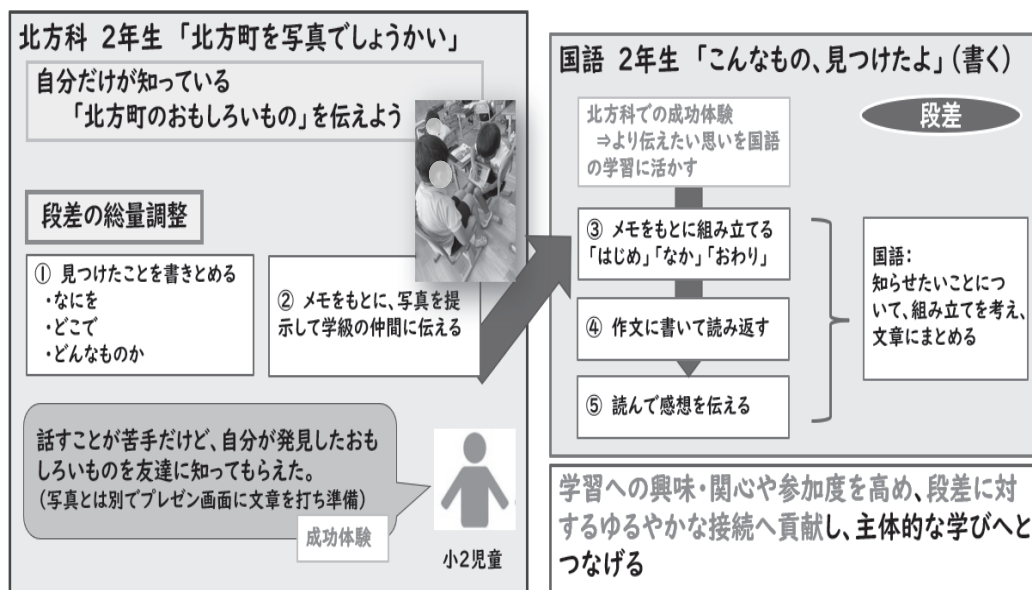


図8 学習の順番の工夫における段差の総量調整例（北方科と国語科）

2年生における北方科と国語科の関連授業を取り上げる。

北方科2年生「北方町を写真でしようかい」は、北方町の面白いものを仲間へ紹介する単元である。国語科の書くことに苦手意識がある子どもにとって、出口の活動として作文を提示するのではなく、身近な素材を扱う北方科の授業と関連させることで、段差を軽減し、教科のゆるやかな接続へとつなげた。図8にある北方科において、「自分だけが知っている『北方町の面白いもの』を伝えよう」とテーマを設定し、そのために何が必要か考えた。自分にしか知らないものを紹介するために、写真やその写真の情報を挙げ、メモをもとに、写真を提示して紹介した。自分にしか知らないものだから、相手に伝えたいという必然性も生まれ、伝え方の工夫も生まれる。自分だけが見つけた面白いものを、友達も知ってくれた、という喜びを成功体験として味わうことで、さらにそれを詳しくまとめるため、国語科の活動の作文へと接続した。

4.2 段差調整の視点「段差の軽減」+他教科等との関連・地域人材活用の事例

地域人材を活用した事例として、北方科2年生の「ホテルが飛び交う北方町」の事例をあげる。この単元は地域で環境保全活動を行っている「ゆうすいの会」のメンバーの方をゲストティーチャーとして招請し、一緒に授業を行った。ゆうすいの会は、本町の糸貫川のホテルを守るために環境保全活動を行っている団体である。

まず、地元の県立岐阜農林高等学校生が北方科の教科書のために作成したホテルの動画資料を使用した。2年生を対象にホテルの一生やホテルの生態についてまとめられているため、資料としても分かりやすいことと、2年生の子どもにとって「僕たちのためにつくってくれた」ということも主体的な学びへの接続とな



図9 地域人材活用としてゆうすいの会の方を招いた北方科の授業実践の様子

った。その後、ホテルの生態から北方町ではどのあたりでホテルが生息しているのか学習支援ソフトと本町の地図を活用しながら考えた。その後、年々数が減っているホテルを守る活動をしているゆうすいの会の方からお話を伺った。図9は実際の授業の様子の写真である。

4.3 段差調整の視点「段差の軽減」＋系統性（テーマ）との関連・他教科等との関連・異学年交流による北方科の段差の総量調整の事例

北方科実践例として、2年生と7年生の異学年交流の実践例を取り上げる。図10にあるように、2年生は生活科と北方科の学習で町探検を行い、町の標識や看板を探す活動を行う。また7年生は、保健体育の学習で、人的要因と環境要因の視点から、交通事故の現状と通学路の安全について学習する。本来であれば、それぞれの学年で教科の学習が完結するところだが、段差集約した意見から、7年生の保健体育において、知識の表層的な習得に留まり、当事者性をもった深い理解にならず、いざという時に活用できないことが挙げられた。そこで、関連する2年生の学びと連携させ、習得した知識を、北方科での切実な場面で活用する経験をさせることを意図し、重点単元として焦点化した。

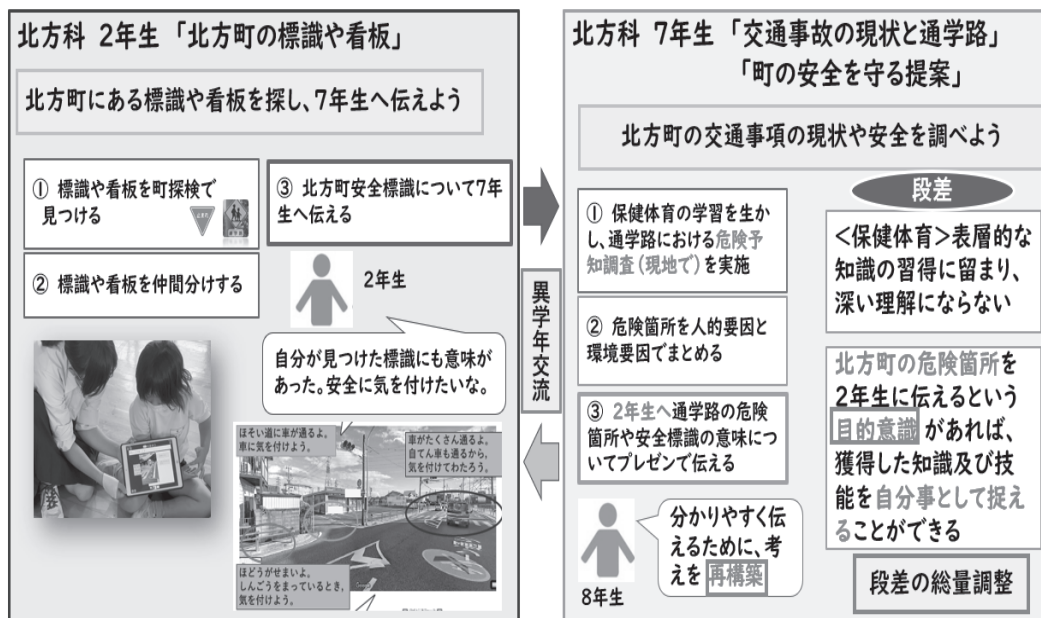


図10 北方科異学年交流に関わる授業の開発

7年生にとって2年生に学習内容を伝える、という目的意識があれば、保健体育で獲得した知識及び技能を、自分事として捉えることができ、教科の学びを深めることにもつながる。北方科として、実際の登下校の現場を見て危険箇所を分類する場を設け、さらに同じ登下校の地区の2年生へ、異学年交流を通して伝え合う。7年生は2年生が分かるよう、学習内容を判断と絡ませ柔軟な知識に再構築して伝えることで、教科



図11 異学年交流の様子の写真と生徒作成のプレゼンテーション画面

で学んだ知識の質を豊かにできるよう段差を調整した。図11は実際の異学年交流の様子の写真と生徒が作成した通学路における危険箇所をまとめたプレゼンテーションである。

4.4 段差調整の視点「段差の分散」+他教科等との関連・地域人材活用の事例

9年生において、北方科「選挙の課題と模擬投票」（公民的分野における「現代の民主政治」）において学習した内容を北方科の学習を通し、さらに本町における選挙の課題やこれからの政治参加について、子どもたちが自分事として捉え考えを深める単元である。社会科で、選挙の意義や仕組み、選挙の課題、私たちの政治参加について学習しているが、教科書の紙面上での学習となっていた。北方科の異学年交流の事例でも先述したが、社会科「現代の民主政治」の学習も知識の表層的な習得に留まり、当事者性をもった深い理解につながりにくい。主体的に政治に参加する態度を育てるためには、教科書における紙面上の学習だけではなく、本町における投票の事態や、実際の模擬選挙の場を北方科に位置付けることで、子どもの主体的な学びを引き出すだけでなく、保護者にも主権者教育について関心を促すことができると考えた。また、高等学校では選挙権が満18歳以上への引下げに対応し、学校現場において政治や選挙権に関する学習の内容の一層の充実を図るため、主権者教育が推進されている。高等学校での学びへ接続するためにも、北方科において「選挙課題と模擬投票」の授業を位置付け、先行実施を行った。

社会科で民主政治について学習した後、岐阜県選挙管理委員会と北方町役場総務危機管理課に協力をいただき、実際の選挙会場を再現した会場を体育館に設置した。選挙当日に使用する投票箱や投票記載台などを配置し、選挙会場で使用する本物を用いて臨場感のある場を設定した。

今回は、本町の仮想跡地利用について5人の候補者が選挙演説を行った。公約を立てて演説する候補者、感情で訴える候補者等、子どもたちは演説に耳を傾け一票を託す候補者を選び投票した。その後、各教室で開票結果について、学級で議論し、選挙の後の公約を振り返った。投票をして終わりではなく、選挙では何を大事にすべきか考えることが必要であることを確認した。図12は模擬選挙の様子の写真である。



図12 模擬選挙における投票の様子

5. おわりに

本稿では、段差と接続の視点に基づく開発の枠組みと北方科の概要について提示するとともに、段差と接続の視点によるカリキュラムの調整に着目し、北方科におけるカリキュラム開発の事例について考察した。北方科の概要については、北方科の系統性、指導内容と教科の関連性、教科書と学習指導案の開発、議論の経過に着目して提示した。またこれを踏まえ、段差と接続の視点に基づく枠組みをもとに、北方科開発の特質である、他教科の学びと地域教材の関連・往還、異学年交流・学園間交流、地域人材の活用を視点として、段差の総量調整によるカリキュラム開発の具体的事例について考察した。

北方科は、義務教育学校開校に向けた準備を進める中でカリキュラム開発の基軸に位置付けられてきた。本稿における整理により、本町の教育資源の活用とともに児童生徒の段差に寄り添った授業展開や、本町への理解や愛着を含めた児童生徒の資質・能力の育成への寄与が期待される。また、本稿で提示した具体的方途は、今後も継続的な増加が予想される義務教育学校や小中一貫教育を推進する他の学校にも参考事例として援用可能な枠組みになることが期待される。今後の課題としては、実施状況の確認及び分析を通じたカリ

キュラムの更新である。本稿の整理や知見を学園推進機構に位置付けて継続的に検討を進めていくこととする。

謝辞

北方町教育委員会をはじめ義務教育学校における北方科の開発に関する全ての関係の皆様に、心より深く謝意を表します。本稿はJSPS科学研究費（課題番号：22K13706）の支援を受けたものです。

引用・参考文献

大羽幸恵・長倉守（2023）義務教育学校における段差と接続を活かしたカリキュラムの開発、岐阜大学教育学部研究報告人文科学、72（1）、223-232、

国立教育政策研究所（2018）小中一貫 事例編、東洋館出版社、233p.

酒井朗（2010）移行期の危機と校種間連携の課題に関する教育臨床社会学－『なめらかな接続』再考－、教育学研究、77(2)、pp. 132-143

白川村立白川郷学園（2022）白川郷学園学校要覧

東京都三鷹市教育委員会（2022）三鷹市教育ビジョン2022（第2次改定）、27p.

https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/031/attached/attach_31932_1.pdf（参照 2023-10-20）

中央教育審議会答申（2005）新しい時代の義務教育を創造する、44p.

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/all.pdf（参照 2023-10-20）

本巣市立根尾学園(2022) 根尾学園リーフレット

藤江康彦（2019）小中一貫教育をデザインする－カリキュラム・マネジメント52の疑問－、東洋館出版社、171p.

伏木久始・峯村均（2017）山と湖の小さな町の大きな挑戦、信濃町の小中一貫教育の取り組み、学文社、201p.

文部科学省（2016）小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き、112p.

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/08/29/1369749_1.pdf（参照 2023-10-20）

文部科学省（2018）小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例集、24p.

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/__icsFiles/afieldfile/2018/01/30/1400462-12_1.pdf（参照 2023-10-20）